

全学モジュール科目案内

テーマ名	14-A8 グローバル社会へのパスポート		
テーマ責任者	源島 福己	責任部局	国際教育リエゾン機構
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
趣旨	このモジュールは、将来、グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を、長崎の知の蓄積を基盤として教授することを目的とします。長崎は江戸時代以降、世界に開かれた歴史を有し、海外からの知はこの地を経由して日本にもたらされました。この経験知を共通の基盤として、国際関係を理解するための基礎知識(モジュールⅠ)、グローバル社会の舞台である国際的なビジネス分野、政府や国際機関等の公的分野、NPOやNGOによる民間分野において、どのような活動がなされるのか、そのためにはどのような資質が必要とされるのか(モジュールⅡ)、あるいはグローバル社会での活動の意義といったより基礎的な知識を皆さんと共有します。未知の大海に打って出ようとする気概のある皆さんの受講をお待ちしています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎を基点とする文化交流史に関する基礎的素養を身につける:科目(Ⅰa)</li> <li>・国際関係を理解するための法、政治の基礎的素養を身につける:科目(Ⅰb)</li> <li>・国際関係を理解するための経済の基礎的素養を身につける:科目(Ⅰb)</li> <li>・国や国際機関等の公的部門が主体となるグローバル活動の課題を実践的に学ぶ:科目(Ⅱc,Ⅱe)</li> <li>・国や国際機関等の公的部門が主体となるグローバル活動の課題を実践的に学ぶ:科目(Ⅱb,Ⅱd,Ⅱf)</li> <li>・企業や民間組織などの国際活動を通してグローバル人材に必要な要素を理解する:科目(Ⅱa,Ⅱf)</li> <li>・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす(全学モジュール共通目標)</li> <li>・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標)</li> </ul>		
学生の皆さんへのメッセージ	「国境を越えた」という言葉でなく、国境という概念自体を意識することなく、社会で活躍する人材を育成する、との目的でこのモジュールは目指しています。そこでは単に英語や外国語能力が求められるのではなく、しっかりとした目標を持ち、そのための基礎的な知識や素養をしっかりと身につけておかなければなりません。その上で、高いコミュニケーション能力、すなわち自らの考えをしっかりと相手に伝える力を持つことが必要です。このような意識を有する皆さんの受講をお待ちしています。		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	(Ⅰa) 東西文化交流の歴史	菅原 潤 深見 聡 姫野 順一	この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)をほりさげ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成をはかろうとするものです。講義は自主性と思考力、判断力と表現力を尊重します。	東西文化交流 日欧交渉史 長崎学 知性史 異文化接触
	(Ⅰb) 国際的視点に立った法と政治	嶋野 武志	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければ、紛争が多発してしまいます。しかも、20世紀に比べ、あらゆる面で国際的な交流が増加している21世紀においては、自国の法だけでなく、異なる歴史・文化を持つ他の国・地域の人たちの法についても、基礎的な知識が欠かせません。この科目では、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、国際的なルールである国際法などを概観するとともに、そうした法を生み出す背景としての政治についても考えます。	法 法の背景としての歴史・文化 法を生み出す政治

モジュールII	(I c) 国際的視点に立った経済	須齋 正幸	グローバル化が進展した現在では、国際関係を理解するためには経済的側面を除いて議論することはできません。この講義では国家レベルでの経済の動きを理解するための知識を基礎として、国際間の経済関係を理解するための基本的要素である貿易や為替レートの役割や国際間の経済への影響などを理解することを目的とします。理論ばかりでなく統計数値の意味等も理解する基盤を提供します。	比較優位と交換経済 貿易と社会 為替制度
	(II a) 企業の国際展開とグローバル人材育成	源島 福己	グローバル社会の中心的な役割を担うのは、様々な国と多面的な関係を有し、国境を越えてビジネスを展開している民間企業です。本講義では国際ビジネスを理解するために必要な基礎的な理論等を概観し、幾つかの日系企業の国際化の足跡を辿りながら、企業の国際化とは何か、またそこで活躍する人材に求められる能力やスキルについて考えます。	多国籍企業 ビジネスのグローバル化 グローバル人材
	(II b) 世界人口の動向と国際開発	松村 真樹	日本や欧州のみならず、アジア諸国においても急速な少子高齢化が進む昨今であるが、その一方で、高い人口増加率が依然として続いている開発途上国もある。人口動態を見ることによって、世界の多様性が見えてくる。同時に、過剰都市化、環境問題、児童労働、格差社会と貧困層、そして少子高齢化など、さまざまな課題も浮き彫りになる。この授業では、人口学的視点から国際社会の変化と多様性について理解を深めます。	人口転換 経済発展 社会変容
	(II c) 英語で学ぶオランダと西欧の文化	山下 龍	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。	東西文化交流  日欧交渉史 日蘭交流  国際理解  長崎学  異文化接触
	(II d) 国際援助と公的部門の役割	加藤 誠治	国際援助は第二次世界大戦後の復興支援からスタートし、国際政治経済の発展とともに様々な要因により変遷を辿ってきました。これまでの世界的潮流やアプローチと2000年以降の国際協調の方策を踏まえ、日本政府による国際開発協力の役割と現状を理解し、今後の方向性を考えることを目的とします。	国際機関 国際協力 ODA 持続性
	(II e) 異文化接触とコミュニケーション	松本 久美子	人の国際的な移動の増大とともに、日常的に異文化に接触する機会も増えています。日本の大学においてもキャンパスの国際化等を目的に留学生の受け入れ及び派遣が進められています。この講義では異文化接触時に起きる異文化摩擦の事例を取り上げ、その原因を多角的に分析しながら、異文化間接触の際のコミュニケーションに必要とされる国際的な素養を涵養します。	異文化摩擦 相互理解 異文化間コミュニケーション
	(II f) グローバルな健康	松山 章子	グローバルな課題、特に途上国の人々の健康問題について、社会、経済、文化的背景を踏まえて	グローバル健康課題

	問題を取り巻く世界情勢	現状を理解することを目的とします。また、このような健康問題に対する国際協力の事例として「社会起業」を取り上げ、学生一人一人が現代社会の中で国際的な視野を持ちながら、個人としてあるいは組織の一員としてどのような関わり方ができるか自発的に考える機会を提供します。	社会企業 国際協力 国際保健
--	-------------	---	----------------------

全学モジュールの目標 キーワード、および授業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
(I a) 東西文化交流の歴史	◎	○	◎		○	○	◎	○	◎	○	○	◎		○	○		○
(I b) 国際的視点に立った法と政治	◎		○		◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○	◎	○
(I c) 国際的視点に立った経済	◎	○			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○				○	○
(II a) 企業の国際展開とグローバル人材育成		○			○		◎	◎	◎	◎	○	◎				◎	○
(II b) 世界人口の動向と国際開発	◎	○			○	○	◎	○	◎	○	○				○	○	○
(II c) 英語で学ぶオランダと西欧の文化	◎					◎	◎		◎	○	◎	◎			◎	◎	○
(II d) 国際援助と公的部門の役割	◎	◎		○			○	◎	◎	○					◎	○	
(II e) 異文化接触とコミュニケーション	◎	○	○		◎	○	◎		◎	○	○	○	○				○
(II f) グローバルな健康問題を取り巻く世界情勢	◎	◎	○		○		◎		◎	◎	○	○	◎	○		◎	○
◎の数(特に重視)	8	2	1	0	2	1	8	4	9	4	3	3	1	0	2	4	0
○の数(重視)	0	5	3	1	5	5	1	2	0	5	5	4	1	3	3	3	8

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目